

# 不二速報



静岡：内線 2790

suu@jade.dti.ne.jp

浜松：内線 3910

suu-seibu@vcs.wbs.ne.jp

組合 HP：

<http://shizudai-union.net/>

発行日 2026年6月25日

第1号 2026年度執行委員紹介【全教職員配布】



## 2026年度 組合執行委員からのご挨拶です

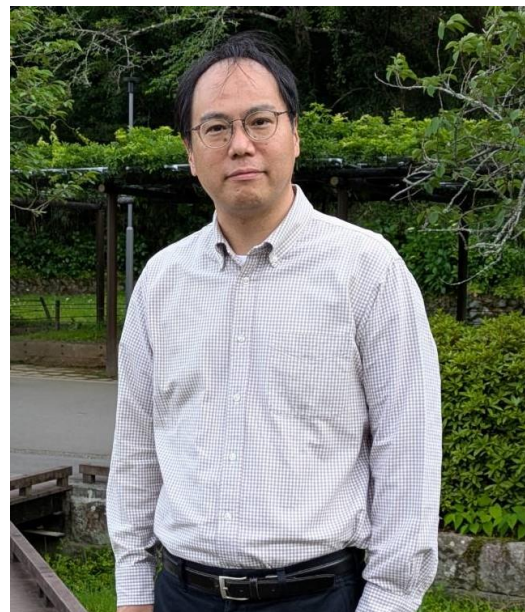
執行委員長 戸部 健 (人文社会科学部支部)



今年度、委員長を担当させていただくことになりました戸部健と申します。所属は人文社会科学部の社会学科歴史学・考古学コースで、専門は中国近現代史です。昨年度の委員長は教育学部の伊藤宏二先生で、ご専門はやはり歴史学(西洋近世史)でしたが、引き続き歴史的な視点も織り交ぜながら組合運営に携わっていかうと思っております。ちなみに、戸部は昨年度の執行委員会で事務局長を担当させていただいておりました。本来であれば執行委員会をいったん離れるべきなのですが、そうすると委員会のメンバーがすべて入れ替わることになり、継続性の面で問題があらうかと思いましたので、もう一年関わらせていただくことになりました。昨年度の楽しい雰囲気今年度にも繋いでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私自身、2008年4月に静岡大学に着任して以来、教職員組合に加入させていただいていますが、正直に申しますと、何か組合の役職についている時以外は『不二速報』など組合からいただいている配布物をしっかり読んでいませんでした(ごめんなさい...)。それゆえ静岡大学の就労状況について十分に把握していなかったのですが、昨年度執行委員として活動するなかで学ぶことが少なくありませんでした。例えば、年俸制Ⅱ型で働いている方々からは、大学院を担当しているのにそれが給与に反映されていない、との声をいただきました。また、パート職員の方々からは、本学の時給が近隣の他の大学や役所に比べかなり安い、との情報を頂戴しました。みな貴重なご意見であり、改善に向けて組合としても努力した結果、以上のうち年俸制Ⅱ型の問題については、大学にもご理解いただきました。パート職員の時給など、依然として解決できていない問題も多々ありますが、今後も皆様の声を大学に伝えることで、学内の就労状況を少しでも良いものにできるよう、がんばりたいと思っております。

財政などの点で大学が苦境にあることは我々も理解しております。また、大学全体をより良いものとしたという想いは、当然我々も持っています。教育・研究・大学行政などそれぞれの場で有意義な試みがなされていますが、それらに従事する人々自体が気持ちのよい環境の下で働けなければ、もっと言うと、働いてくれる人々自体が静岡大学を選び続けてくれないのであれば、どこかで壁にぶち当たるのではないかと思います。その意味で教職員組合の持つ機能というのはこれまで以上に重要だと思います。押しの弱さには定評があり、そのような者に委員長がつとまるのかかなり不安ではございますが、頼りになる新執行委員の先生方とともに、楽しみながら乗り越えていきたいと思っております。皆様におかれましては引き続きお力添えをいただければ幸いです。



## 副執行委員長 生源寺 類(浜松キャンパス支部)



今年度、副執行委員長を務めることとなりました工学部の生源寺類と申します。組合員としては長く在籍しておりますが、これまでは周囲の熱心な方々に支えられながら活動に参加していた部分が多く、自ら積極的に関わることにはあまりできておりませんでした。今回このような役職をお引き受けすることとなり、改めて組合活動の役割や意義について考えております。組合には待遇改善に向けた取り組みだけでなく、教職員同士が学部や職種を越えてつながり、安心して意見交換できる場としての役割も求められているのではないかと考えております。私自身、これまでの組合活動を通じて、普段は接点の少ない方々のお話を伺う機会を得ることができ、多くの学びがありました。微力ではありますが、執行部の皆さまと協力しながら、皆さまの声に耳を傾け、少しでも働きやすい環境づくりに貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 事務局長 丸山 修(教育学部支部)



事務局長を務めることになりました、教育学部の丸山修です。支部委員の経験はそれなりにありますが、執行委員は10年以上前に一度務めただけで、さして経験を積んだとは言えず、至らぬ点が多々あるとは思いますが、微力を尽くす所存です。数年後には退職を迎える身ではありますが、組合活動でお世話になった先輩方への恩返しという意味も込めて、何か貢献できるとすれば今回が最後のタイミングだという心境に至った次第です。

組合の組織率の低下は慢性的な問題ですが、私自身、長年組合員であるとは言え、本当に組合があって助かったと思えるような経験は幸か不幸かありません。多分それが平均的な感覚だと思いますし、多忙化の折、組合加入に魅力を感じられないのも致し方ないのかなというのが正直な思いです。大学におけるさまざまな歪みの多くについては、その根本原因が構造上組合の力の及ばないものであるのかもしれませんが、そんな中で本当に必要なことは何なのかを追求し、知恵を絞って皆さんと力を合わせて取り組んでいければと思います。

## 執行委員 川原崎知洋(教育学部支部)



このたび、執行役員として一年間務めさせていただくことになりました。教育学部の川原崎知洋です。

組合員数が減少傾向にある一方で、私たちを取り巻く課題は多岐にわたっており、簡単に解決策を見出せる状況ではありません。しかし、だからこそ組合員の皆さまの声に耳を傾け、丁寧な対話を重ねながら、よりよい職場環境づくりに少しでも貢献できるよう努めてまいります。微力ではございますが、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



## 執行委員 長谷川達朗(人文社会科学部支部)



今年度の執行委員を務めることになりました、人文社会科学部の長谷川達朗と申します。静大に着任して今年で4年目です。昨年は、人文社会科学部支部委員を務めました。

私の専門は日本経済史で、山間地域の社会経済について研究しています。授業では「日本経済史」や「日本経済論」といった科目を担当しております。これらの授業では、戦前・戦後の労働者や労働運動についても扱います。敗戦直後に労働三法が成立し、日本ではじめて労働者の権利が広く認められる。これは、中学校で誰もが習うことです。それもあってか、授業で「現在の労働組合の組織率」を学生に予想させると、3割や5割と思っている学生も結構います。しかし、残念なことに、日本社会で組合の組織率がそこまで高くないことは周知の通りです。

一方、学生の前でえらそうに喋っている私も、組合がなんたるかを十分に理解しているとはいえません。自分の目先の問題を解決するためにも、教育を通して社会を少しでも良いものにするためにも、今年は組合の活動を頑張りたいです。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



## 執行委員 吉田 寛 (浜松キャンパス支部)



今年度執行委員の吉田(浜松キャンパス支部)です。浜松キャンパス支部では、退職などに伴い組合員の減少が進んでいるので、それを食い止めることが支部全体として共有されている重要課題になります。キャンパス支部では、支部長や支部委員を中心に昼食会やスイーツ会を開催することで、組合員同士の親睦をはかるとともに、組合未加入の教職員にも声かけする機会をつくっています。社会ではこのところ、生成AIの導入が急速に進んでいて、何でもかんでもコスパ重視、効率重視になりつつある印象です。しかし私は、こういった風潮には危うさを感じています。効率を重視すべきところもあるでしょうし、効率ばかりを追い求めない方がよいところもあるでしょう。大学においても、組合ががんばっていることで何とか人間らしい労働環境、職場が守られる側面がまだまだあるように感じています。教職員が安心して生き生きと働ける大学であってこそ、学生ものびのびと安心して学問や活動に取り組めるのではないのでしょうか。よろしくお願いいたします。



2026年度第128回定期大会の日程が決まりました  
7月30日(木)14:30~16:30  
対面とオンラインでの開催を予定しています

お知らせ

Check!

### 日誌学長と「組合三原則」「労働協約」の確認を行いました

6月15日(月)、戸部執行委員長から日誌学長に「組合三原則」と「労働協約(三通)」をお渡しし、内容の尊重をお願いしました。この三原則の確認は、例年第1回団体交渉の冒頭で行っていましたが、昨年度から大学の提案でこの時期に特別に行っています。

組合からは戸部執行委員長と丸山事務局長が、大学からは日誌学長、佐藤事務局長、興津総務部長、山口職員課長が出席しました。

日誌学長から組合三原則に配慮することをご確認いただきました。



戸部執行委員長、丸山事務局長と日誌学長  
(事務局4階学長応接室にて)

Check!

### 年俸制II型の大学院調整 手当支給方法改善など

### 「教職員組合」2025年度はこんな成果がありました!

昨年度は団体交渉を2度行いました。第1回は10月末に行い、①人事院勧告の完全実施、②時間外労働(長時間労働)の是正、③非常勤職員の時間給見直し、④年俸制職員の手当について制度の再検討と十分な説明、など15項目を要求しました。一方、第2回は事務折衝のかたちで3月に行い、第1回団体交渉での要求事項の中から精選した5項目について再度要求したのに加え、⑤補正予算の用途について説明するよう新たに求めました。その結果、④については我々の要求がおおよそ受け入れられました。具体的には、人事課の職員らが、教職員組合主催の第1回教研集会(11月)において年俸制II型の仕組みについて詳しく説明して下さいました。また、我々からの指摘を受けて年俸制II型の手当の制度が2026年4月から、より不公平感のないものに変更されました。これは組合にとって昨年度最大の成果であったと考えます。

そのほか、⑤については後日書面にてご提示いただいたので、それをもとに補正予算の用途について我々の方でチェックすることができました。また、②については全学安全衛生委員会での議論を拝察する限り、長時間労働の削減に向けた取り組みがなされつつあることがうかがえます。そして、①については12月1日からの適用ながら人事院勧告に沿った給与改定がなされました。③のように、対応していただけなかった項目も少なくありませんが、職場環境の改善のために要求すべきことは引き続き要求していきます。

なお、以上とは別に、昨年度は第2回教研集会として12月に小和田哲男名誉教授による講演会「いま、豊臣秀吉に学ぶ一補佐役の歴史的役割」を開催したり、支部によっては7月にビアパーティを実施したりしました。今後も学内の皆様が楽しめるような企画を可能な限り催したいと考えていますので、その際はぜひご参加ください。

**組合ならできること、組合にしかできないことがたくさんあります。  
大勢の声を合わせれば必ず声が届きます。ぜひ組合にご参加ください!**

### 静岡大学教職員組合加入申込書

静岡大学教職員組合執行委員長 殿

年 月 日

私は静岡大学教職員組合に加入を申し込みます。

氏名	所属	連絡先 E-mail
----	----	---------------

ご意見ご要望などご記入ください。

※必要事項をご記入いただき、「組合事務局」までお送りください。メール等でも申し込みできます。

ご記入いただいた事項は、組合活動情報等の提供、組合費徴収などの事務のため、適切な取り扱いをいたします。